

滋賀県立八日市養護学校

活動テーマ

野菜づくり×CO₂削減

～SDGsについて子どもたちと考える～

令和7年度
「わたしがやります！
学校CO₂ネットゼロ」
活動報告書

取組の概要について

昨年度に引き続き、さつまいもを育てている畑を使って、CO₂削減にむけた取組を行った。残飯を肥料にしてゴミを削減することが、ゴミを燃やしたり溶かしたりするときに発生するCO₂削減もなっていることを昨年度に学び、本来ゴミとなる残飯が野菜を作るために大切な肥料へと生まれ変わるという‘リサイクル’に繰り返し取り組んだ。この視点を児童たちが体験的に学ぶこと、また、収穫したさつまいもを余すことなく利用することで、そもそも‘ごみを出さない’ということが大切であるということも同時に学ぶ機会としたいと考えた。

1. 実践の概要

今年度、この取組を行ったのは特別支援学校小学部4～6年生の5クラス29名である。生活単元学習として5クラス合同で畑を使用し学習を進めている。例年、さつまいもやじゃがいも等の栽培と収穫や、調理活動に取り組んでいる。年間を通して取り組んでいるが、それら一つひとつの活動は別れた活動であり、知的障害がある児童達にとって関連して理解することが難しい傾向がある。また、1年間だけの取組では十分な理解が難しい児童や繰り返し行うことで理解を深める児童がいるため昨年度に引き続きこの取組を通して自分たちが植えた野菜が大きくなって収穫をし、収穫したものを使って調理活動に取り組むという体験的な学習を中心にして実践を行った。一方で、‘CO₂削減’や‘SDGs’というテーマは児童にとって馴染みがなく難しいものであると考え、‘ゴミ＝捨てる’ではなく、‘リサイクル’という視点もあるということを体験的に学び、考えられるように継続して取り組んだ。

2. 実践の内容と工夫

(1) 給食の残飯を肥料へ変える

児童が残した給食の残飯を毎日コンポストへ入れ続け、時々米ぬかも加えながら肥料づくりを行った。児童への指導や説明では、イラストを用いて、‘食べ物の残飯が良い土に変わる’と伝えた。児童は、残飯を継続して観察することで、残飯が形状を変化させ、最後には土のようになっていく様子を視覚的に見て体験的に学ぶことができた。今年度からこの取組を学んでい

る児童は、不思議な表情で観察する様子が見られた。継続して取り組むことにより、給食の残飯をコンポストへ入れる活動を児童が自主的に行うことができ、コンポストの中で作られた肥料は、さつまいもを収穫したあとの畑に追肥として使用し、その後は大根を栽培・収穫するための畑の再生へつなげることができた。



[コンポスト]

(2) 収穫したものを残さず利用

‘残した食べ物は肥料になり、野菜を育てる土に混ぜると野菜が良く育つ’ということを体験的に学んだ児童たちであるが、‘ゴミを出さない’ことも大切である。そのため、今年度も収穫したさつまいもを使って、様々な活動に取り組むことで、‘余すところなく使ってゴミを出さない’ということをテーマにして学習することができた。

調理活動では、今年度も引き続き栽培・収穫したさつまいもを使って、やきいもやスイートポテト、大学芋、芋もち、さつまいもチップス等を作り味わうことができた。また、小さなさつまいもや害虫被害があったさつまいもは、芋判子にして活用することができた。一般的な普通の判子よりも持ち手が太いため、肢体不自由が

あり手指の操作が難しい児童でも握りやすく、個性あふれる魅力的な作品づくりができた。さらには、さつまいものツルは、時期にちなんでクリスマスリースの制作活動で使用した。

このように、収穫したさつまいもを全て使うことで、‘ゴミを出さない’という視点も併せて体験的に活動することができた。



[いもほりの様子]



[収穫したさつまいも]



[クリスマスリース]



[やきいも]

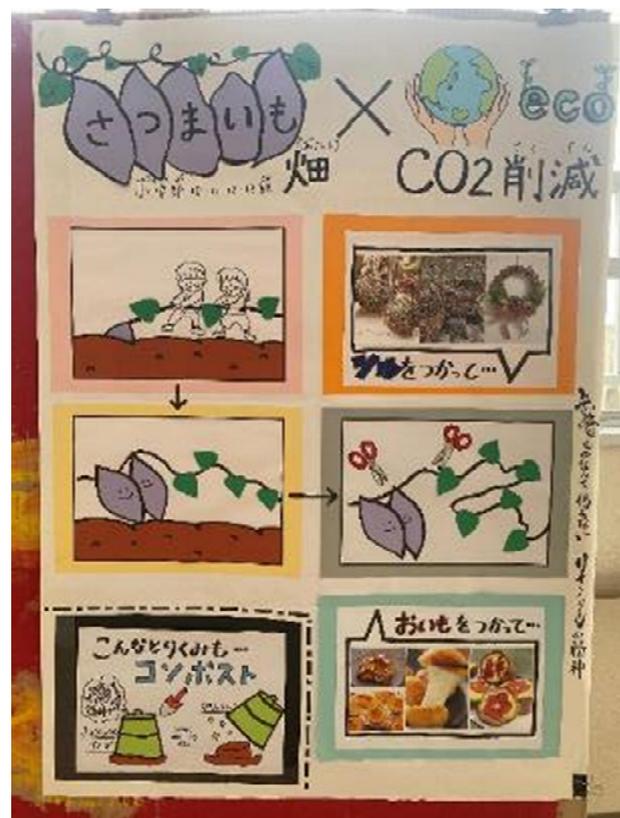
(3) ポスターで対象児童と全校に周知

昨年度は、児童が視覚的にこの取り組みを理解しやすいようにポスターの作成を行った。今年度もそのポスターを活用して野菜を「植える」こと、「収穫」をすること、その野菜を使って「調理をして食べる」こと、「普段なら捨てる部分でも制作に使う」ことを、イラスト中心にしてまとめたものを適時掲示し、それぞれの活動のつながりを意識できるようにした。自身の活動とこのポスターに掲示されている活動をマッチングさせながらフィードバックや見通しをもつ児童がいたり、食べることへの興味や関心で笑顔になる児童がおり、活動に対する期待感や楽しみを表していた。また、校内に展示していたため、他クラスの児童や全校の先生方に周知する機会となった。

3. 取組の成果と課題

取組の成果としては、児童が‘リサイクル’という視点をもつために継続して体験的な取り組みができたことである。昨年度に引き続き、自分たちが普段残してしまっている給食の残飯が肥料になるということを学んだが、ペットボトルゴミや牛乳パック、雑誌類等のリサイクルにも興味を示してくれることを期待している。また、‘できるだけゴミは出さない’ということも意識を高めること

にも期待をする。今年度も引き続き取組を行いコンポストの利用推進を発信しているが、学校全体の取組とはなっておらず、小学部の一部のクラスのみ取組となっている。今後もコンポストのメリットや学習効果を全校に発信しながら給食の残飯を集めてコンポストに入れることができれば、もっと多くの児童生徒にこの取組を知ってもらい、リサイクルについて考えるきっかけとなるのではないかと考える。



[取り組みのポスター 2025年度作成]

4. 学校におけるCO₂ネットゼロ活動の今後の展開

今後についても引き続き給食の残飯をコンポストに入れて肥料に変え、栽培活動を進めていきたい。また、現在育てている大根は、もう少ししたら収穫時期になるため、収穫した後に、再度この取組の紹介も含めて‘堆肥で育てた大根’として校内での販売等を通して、啓発を行っていきたいと考える。

学校名	滋賀県立八日市養護学校
住所	東近江市上平木町 290
電話番号	0748-23-1774
E-mail	mb60e@pref-shiga.ed.jp